

Title	和歌山藩國律：村田本
Sub Title	The criminal code of Wakayama-Han
Author	手塚, 豊 (Tezuka, Yutaka)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1953
Jtitle	法學研究：法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.26, No.6 (1953. 6) ,p.33- 59
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	資料
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19530615-0033

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.



和歌山藩國律 — 村田本 —

手塚 豊

解題

和歌山藩の藩法として「國律」及び「國律補助」と呼ばれる二つの刑法典が存在したことは、夙に知られている。「國律補助」は「南紀徳川史」に全文が収録されているので、参照に不便はないが、「國律」は小早川欣吾教授が「明律令の我近世法に及ぼせる影響」と題する論文において、「國律」に對する明律の影響を考察された折に、若干の條文を引用されたにとどまり、またその全貌を一般に公表したものは見當らない。小早川教授の利用されたのは、京都大學法學部所藏本である（以下、京大本と略稱する）。同大學法制史研究室は、その所藏に係る種々の藩法を、昭和十七年以降「藩法資料集成」として逐次公刊していたが、戦争の影響で惜しくも中絶し、「國律」の覆刻にまで至らなかつたのである。終戦後も、この公刊事業はまだ復活していない。これらの藩法中、「國律」を含む刑事法關係の十種類は、大正時代に東京大學所藏本を轉寫したものであつて、その傳承事情は三浦周行博士が「失はれたる近世法制史料」において

て説明されているが、この解説に若干の誤解が存することは、かつて私の指摘した通りである。すなわち明治元年に新政府の刑法局が舊藩刑法を蒐集したといわれる三浦博士の見解は誤りであつて、それらの蒐集は明治八年一月七日、司法省が各府縣に令した布達「從前各藩被立置候節徳川氏刑法ノ外其藩祖ヨリ用來リ候習慣ノ法律或ハ法律ニ類シタル罰則並ニ罰例存在致シ居候分ハ本年三月迄ニ其府縣ニ於テ取調一本ツツ當省へ差出シ可申候條此旨相達候事」にもとづくものであり、「國律」については、「南紀徳川史」があきらかに「國律の書上下二本ありしが、明治八年一月中命に應じて和歌山縣より司法省に送呈す」といつているところである。この司法省蒐集書類が後に幕府評定所の諸記録と共に東京大學に引き繼がれ、京都大學による一部副本作成後、關東大震災のため永久に湮滅したものである。司法省が藩刑法を集めたのは、その當時企畫中の刑法典編纂の資料のためと思われるが、いかなる人の發議によつたかは明らかでない。當時、左院議官として刑法取調の専務であつた村田保は、その回顧談で次のようにいつている。

維新後になりまして段々各藩の刑法書といふものを取集めたことがあります。所が幕府の時分に於ては、寺社奉行とか町奉行とか評定所吟味役とか留役と云ふ如き者は今日の裁判官にして法律に關することは親子兄弟と雖も話をせぬと云ふ誓ひを立てて在るのであるから、何人といへども法律を知ることができないのである。故に各藩の法律書を集めるにも、或は中には焼棄して仕舞つたと云ふやうな類がある。私なども刑法書は大部分集めて居り升すが、中には其跡を見る事が出来ぬものがあります。

この談話でも、村田の懲愆で司法省が集めたのか、又は司法省の蒐集したものを村田自身が轉寫、收藏したのか、その間の事情は明らかでない。しかし、後に明治十六年太政官大書記官としての彼が編纂した「各國刑法比照」六卷（參事院出版）には、藩刑法八種が引用されていることからみれば、彼が藩刑法に特別の興味と關心をもつていたことは事實であらう。

先年、村田保の所蔵していた諸文書は、慶應義塾が寄贈をうけ、現在法学部研究室にて整理中であるが、この中に「舊和歌山藩國律」と題する寫本一部が存在する。太政官十三行野紙五十六枚に淨書されたものである（以下村田本と略稱する）。これはおそらく前掲刑法比照に使用された資料の一つであり、さらにまた和歌山縣から司法省に提出された原本を轉寫したものと推察される。これと、小早川教授の説明によつて知りうる京大本とを比較すると、若干の相違が存在するようである。すなわち、京大本では百五十餘の舊判例がそれぞれ該當條文の箇所に記載されているし、また「律」あるいは「公裁」として、母法とみられる明律及公事方定書の條項を頭書し

たものがかなり多いようである。しかるに、村田本では律文（明律）を引用して註記したものの僅かに一ヶ所「公裁」として幕府法の條文を引用しているのも同じく一ヶ所にすぎない。この點からみると、村田本は「國律」の本條だけを主として轉寫したもののようである。それがため、村田本では典據とされた舊判決例は全くわからず、また明律及び幕府法を繼受したと思われる條項も、京大本ほど確實には知りえない。將來、京大本が覆刻される機会があれば、これらの點はさらに明らかになることであらう。しかし、たとえ條文そのものだけでもせよ、村田本「國律」は京大本に對する一種の異本として、これはこれなりに存在價值もあらうかと思われるのでここにその全文を覆刻、公表する次第である。

次に「國律」の成立年代であるが、これについては小早川教授が前掲論文で詳しく考證しておられる。教授は「その創定の年次明かならざれども、一に享和文化の比儷官山本爲之進命を受けて幕府の公裁録及び明律に基き選定すと傳ふ」という「和歌山史要」の記事を検討し、編纂時期については大體において正しいものとみておられる。その理由としては、京大本「國律」に記載されている判例が全て寛政以前のものであること及び享和文化の頃の藩主徳川治賢は藩政の大改革を行ったこととて、新しい刑法典の編纂も充分に可能性があつたことをあげておられる。しかし、山本爲之進が編纂したという確證は見當らないといわれている。「和歌山史要」の記事は、それ以前に發行されている「和歌山縣誌」の説明をそのまま承継したと思われるが、私もいまのところ、これらの記述を確實にうらづける何等の資料も有していない。また、その構造と規定内容に

對する明律の影響も、教授が遺憾なく論證されているが、幕府法及び藩の舊慣例もかなり豊富に採り入れていることを見のがしてはならないと思われる。

- (1) 南紀徳川史・第十七冊一〇五〇頁以下。
- (2) 東亞人文學報第四卷二號三九頁―五一頁。
- (3) 續法制史の研究・一四五―頁以下。
- (4) 拙稿「刑法局格例調考」本誌第二四卷八號二頁―四頁。
- (5) 前掲南紀徳川史・一〇三三頁。
- (6) 村田保述「法律の沿革」(明治二十六年刊) 三頁。
- (7) 和歌山史要(大正九年刊) 七〇頁。
- (8) 山本爲之進は、治寶の侍講にて文化三年十二月歿。
- (9) 和歌山縣誌(大正三年刊) 上卷・五四―頁。

一、なお原本はひどい蟲食いのため、判讀困難の箇所がある。そこは「各國刑法比照」に引用されている「國律」の條文で出来るだけ補訂した。同書に引用されていない條文で不明の箇所のあるものは、推測できるものもそのまま赤字とした。

二、轉寫の際の明らかな誤りと思われるものも故さら訂正せず、そのままとしたが、同一條文がつづいて二度書かれてあるのは、その一つを省いた。

三、文字の配列、大小はなるべく原形を保つように印刷したが、特殊の假名文字で印刷の便宜上から普通の字體に改めたものが少數ある。

國 律 乾

國律卷之上

○名例律

一 官刑七等

御目通差扣

御目通エ出シ不申

差扣

追込

逼塞

急度追込同

追込過料
過料□詰

閉門

急度押込同

當役御免格小普請

役儀差免

當役被

召放

役儀取上

知行

召放

御扶持被召放ハ多等故七等之内ニ不入

御切米

被 召放

御城下ニ罷在間敷旨

一 御扶持被

召放

御城下ヨリ何里之内ニ罷在間敷旨

一 御扶持被

召放

御領分ニ罷在間敷旨

一 放刑八等

居町追拂

居村追放

御城下追放町拂准之

村追放

五里外追放

郡追放

七里外追放

改易

十里外追放

勢州一領追放

十五里外追放

二十里外改易 勢州御領分追放
追放

在郷ニ遣シ押込被置 牢腐

一 御暇被下 御暇被下ハ多等故八等之内ニ不入

一 御暇被下 御城下ニ罷在間數旨

一 御暇被下 御城下ヨリ何里之内ニ罷在間數旨

一 御暇被下 御領分ニ罷在間數旨

一 死刑五等

死罪 諸士ハ切腹

斬罪

斬罪梟首

磔

火罪

一 贖刑九等 過料ナリ

銀壹枚

金貳歩

同壹歩

錢壹貫文

同七百文

錢五百文

同三百文

同貳百文

同百文

一 十惡

一 曰謀反

社稷ヲ危メント謀ルライフ

二 曰謀大逆

三 曰謀叛

四 曰惡逆

五 曰不道

六 曰大不敬

七 曰不孝

八 曰不睦

九 曰不義

十 曰內亂

宗廟宮殿ヲ破ント謀ルライフ

本國ニ背キ潛ニ他國ニ從ント謀ルライフ

祖父母父母並夫ノ祖父母父母ヲ毆キ又ハ

殺ント謀リ伯叔父姑外祖父母並夫ヲ殺シ

又ハ奴婢主人ヲ殺スライフ

一家無罪ノ者三人ヲ殺シ又ハ毒物ヲ以テ

人ヲ殺スノ類ライフ

宗廟神御ノ物ヲ盜ミ上ノ服御ノ物ヲ盜ミ

御判等ヲ詐僞スルライフ

祖父母父母並夫ノ祖父母父母ニ孝順ナラ

ス奉養等乏絶スルノ類ライフ

親族不和ニ有之或ハ殺ント謀リ又ハ打擲

等スルライフ

配下ノ者頭支配ヲ殺害スルノ類ライフ

親類相姦通スルライフ

八議 議ハ罪アリトイヘトモ評議ノウヘ刑ヲ宥ルライフ然共十

惡ヲ犯ス時ハ此律ヲ不用

上ニ御續キ有之人ライフ

上ノ故舊ニテ元ヨリ恩待ヲ蒙ル事久キ人

ライフ

大勳功アル人ライフ

大德行アル賢人ライフ

大才能アル人ライフ

國家ノ爲ニ大勤勞アル人ライフ

大夫以上ノ人ライフ

三 曰議功

四 曰議賢

五 曰議能

六 曰議勤

七 曰議貴

八 曰議賓

上ヨリ賓客ヲ以被待ノ人ヲイフ

一

御赦

目出度御時節又ハ御追善之砌等ニ付刑人御赦免並牢獄之内建直リ之節大工頭料願ニ依テ死罪ノ者一人一命被助進放申付ルヲイフ

放申付ルヲイフ

一

三有三赦 臨時ニ罪ヲ宥赦スルヲイフ

一 宥日不識

不識ハ不審ナリ復讐ノ人甲ヲ殺スヘキヲ乙ヲ見テ甲ト存シ誤テ殺スノ類ヲイフ

二 曰過失

双ヲ以テ木杯ヲ切ラントシテ誤テ人ニ中ル類ヲイフ

三 曰遺忘

〔薄ノ外ニ人ノアルヲ忘レ誤テ兵矢ヲ以テ投射スルノ類ヲイフ

一 赦曰幼弱

十五歳以下ハ刑ヲ輕クシ七歳以下ハ全ク赦スヲイフ

(欄外の書入れ——手塚註)

宥罪ノ年齢十五歳以下ト申ハ十四歳迄ニ候哉ト御城附ヨリ内々奥右筆兼エ承ラセ被成右ハ十四歳迄ニテ十五歳ヨリ宥罪取扱不相成旨秋山松之丞申聞候由江戸ヨリ申來ル文化六巳正月□日留役來狀ニ□□

二 曰老耆

七十以上ハ刑ヲ輕クシ八十以上ハ全ク赦スヲイフ

三 曰愚癡

愚昧ニテ理ヲ辨ヘサル者ハ刑ヲ赦スヲイフ
亂心者ハ愚昧同様ナレハ是亦赦スヘシ

一 常赦ノ所不レ赦

和歌山藩國律

一

老幼篤疾者宥刑

十惡其外人ヲ殺シ上ノ物ヲ盜ミ及強盜放火詐偽強姦等ノ罪ヲ犯シタル者ハ非常ノ御赦ハ格別常赦ニテハ罪ヲ赦サ、ルヲイフ

三赦ノ内ニアル通りニテ七十以上十五以下ハ十惡等ヲ犯スハ格別其餘ハ一等モ二等モ輕ク咎ムヘシ八十以上十歳以下並ニ篤疾ノ者ハ反逆不道等ノ外ハ赦スヘシ九十以上七歳以下ハ死罪ヲ犯シ候テモ全ク刑ヲ加ヘス若人アリテ教ヘセシメテ罪ヲ犯セハ其教ヘセシムル者ヲ罪ニ行ヘシ

罪ヲ犯ス時イマタ老疾ナラス共事發スル時老疾ナルハ老疾トイフヲ以テ論スヘシ罪ヲ犯ス時幼少ニシテ事發スル時長大ナルハ幼少トイフニ依テ論スヘシ

罪ヲ犯シ人ノ告言セサル先ニ自ら其罪ヲ申出ル者ハ其罪二等ヲ輕クスヘシ逃奔シテ自首スル者又ハ逃奔シテ罪ヲ自首セストモ其所ヘ立歸リ居ル者又ハ逃奔シテハ父兄罪ニカ、ラン事ヲ恐レテ立歸リ自首スル者モ是亦同様罪ヲ減スヘシ

一

犯罪自首

罪ヲ犯シ人ノ告言セサル先ニ自ら其罪ヲ申出ル者ハ其罪二等ヲ輕クスヘシ逃奔シテ自首スル者又ハ逃奔シテ罪ヲ自首セストモ其所ヘ立歸リ居ル者又ハ逃奔シテハ父兄罪ニカ、ラン事ヲ恐レテ立歸リ自首スル者モ是亦同様罪ヲ減スヘシ
雖レ不自首ニ能還歸本所ニ者減罪二等ト御座候ニ付本文之通相認候儀ニ御座候出奔立歸ハ内々立歸身ヲ隱シ居候筋ヲ申候本文之筋ハ上ノ刑ヲ受候ヲ合點ニテ顯然ト立歸リ居リ刑ヲ相待候筋又ハ自首スル積ニテ立歸リ候處イマタ自首セサル内ニ召捕レ候筋ヲ申出奔立歸者トハ差別有之儀ニ御座候

一 共犯罪分三首從

二三人以上言合セテ罪ヲ犯セハ首ト從トヲ分ツヘシ張本人ヲ首トシコレヲ重ク罪ス一味隨從ノ者ヲ從トシ罪一等ヲ減スヘシ首從ノ分チナキハ勿論一様ニ罪ニ行フナリ

一 親屬相ニ爲容隠^ス

同居有服ノ親類罪アル時送ニ相隱シ並家來等主人ノ爲ニ罪ヲ隱ス者ハ吟味ニ不及然共惡逆大不敬以上ノ罪ヲ犯ス者ハ此律ヲ不用

一 舊惡可^レ追咎^ル者^六

舊惡ハ追咎ルニ不及候ヘ共此七條ハ追咎ムヘキヲイフ

一ニ逆罪之者ニ邪曲ニテ人ヲ殺シ候者三ニ火附四ニ徒黨シテ人家ニ押込候者五ニ追刺並人家ニ忍入盜人六ニ公儀御法度ヲ背キ死罪以上ノ科人七ニ惡事有之尋被 仰付有之者

右之輩ハ舊惡タリ共御仕置取扱可申此外之科一旦惡事イタシ候共其後相止候由申尤外ノ沙汰モ無之筋ハ十二ヶ月以上之舊惡ハ不及追咎

一 以^レ情愆^ス罪者^三

罪ノ名目ハ重ク候トモ其情意無據筋ハ罪ヲ恕シテ輕キニ從フヲイフ

一ニ人ヲ勾引タル者ハ死罪之管ニ候ヘ共極貧之者妻子ヲ同輩ノ者ノ養子ニ遣シ候テハ賣タルモ同様ニ養父又外ニ賣候トモ勾引賣ニハ不相成

一ニ人ヲ殺シタル者ヲ圍置候者ハ本人同罪ノ管ニ候ヘ共當座ノ喧嘩等ニテ人ヲ殺シタル者ニ被頼義理ヲ以圍置候類ハ輕ク咎ヘシ

一ニ謀書謀判ハ重科ナレ共證據ヲ以爲可訴出謀書ヲ認或ハ作リ名ニ判ヲ押候類ハ欲心ヲ以イタシ候謀書謀判トハ格別ニ取扱ヘシ

右三條ノ類ハ名目ニ不拘情意ヲ糺シ評議スヘシ

○公式律

禁裡 公儀 御書 御用遲引 届拔 頭拔

一 禁裡御所方之儀ニ付御伺拔並延引等有之候節掛リ之役々類族之者子孫出生等届拔 公儀御届御證文ニ洩レ候筋

閉門

一 御登 城御達等拔候節掛リ之役人

一 上使之節御注進間違之品申上候筋

一 御書受取候ウヘ龜抹ニ取扱候者

逼塞

一 御内々ヨリ御差上物相紛レ表向ヨリ御差上ニ取計候得者掛リ之役人

逼塞或ハ閉門

一 御成之節御先手物頭詰等拔候筋御目付

差扣日數 十日

一 御成之節高見エ上リ候者

御扶持放シ

一 御老中御招請等之節注進拔又ハ遅リ候ヘハ

御小人代役等ハ代役取上過料

一 御自筆御書之箱上書認違等有之候ヘハ掛リ役々

差扣日數 二十日

一 公儀ヨリ出候御觸書寫落字等有之候ヘハ

差扣日數 七日

御用部屢其外諸役所ニ諸届拔

一 類族江戸若山等往來之節寺社奉行ニ届拔

御暇ニテ他出御目付ニ届拔

紛失物有之節御目付ニ届拔

御目付ヨリ御觸書順達延引

一 組願等相濟當人エ之通並届等延引

子弟等ヲ他所ニ遣候節願拔

他所往來之節駕籠願拔

親類等同居イタシ候節願拔

構有之者ヲ名跡等ニ願其品不存願書相達候筋

差扣日數十日ツツ

但親病死之砌願參届御目付エ延引之筋ハ御用捨ヲ以御呵

一 差扣申渡等早速不申渡翌日申渡御日柄ニ當リ候ヘハ

通塞

一 差扣申渡等御日柄ニ障リ無之一通り延引イタシ候ヘハ

差扣日數五日

一 差扣御免並追込平結等差免申渡出平申渡延引之筋

同前

但延引日數モ有之候ヘハ差扣日數相増

一 支配申込之書付等受取失念イタシ差出候儀延引之筋

差扣 日數ハ延引之日數ニ應シ多少

○衛禁律 御番 御供 御門出入等

一 御番日之當番ニ不出者

閉門

一 宿番之節心得違晝御番相勤宿拔候者並御供相勤宿リ番拔候者

逼塞

一 私用ニ付心得違當番明歸候者

同前

一 御番代リ不出内下リ候カ又ハ御番遅參

一 出御之節御門エ不出御先手

差扣日數十日

一 御供遅參兩御供共拔候者

差扣日數二十日

一 御供遅參片御供扣勤候者

差扣日數十日

一 御供遅參ニテモ御間ニ合候ヘハ不及差扣

一 御供之節御刀筒等取落シ候御徒

追込日數十日

一 出御之節甚亂頭ニテ御供ニ出候者

同前 右ニ付支配御呵又ハ差扣被 仰付

一 御道中ニテ川 御越之節駕籠ニテ御供イタシ候筋

逼塞

一 御駕居リ候儀無心附 御目通り駕籠ニテ罷越候筋

差扣日數十日

一 御本陣前乘打イタシ候筋

一七八五細書坊

諸手代足輕等ハ金壹步ツ、

但病氣ニテ 御本陣前駕籠ニ乗通り候者

輕キ者ハ過料三百文

一 御供先ニテ酒ニ酔御供不相動者

御扶持放シ

一 江戸ニテ御門番人御門ヲ無禮又ハ切手ナシニ出シ候カ又ハ證文

等無之者ヲ容易ニ出入爲致候カ又ハ通ヌ聞敷モノヲ切手ニテ通

シ候カ又ハ紛ハシキ者ヲ頼ニ付不改内々ニテ通シ候ヘハ

御扶持放シ

但全ク過失ニテイタシ候ヘハ元極之通過料

一 御門札ヲ調略イタシ御門ヲ掠出候者

一 鳥目等取無札ニテ御門出シ候番人

五里外追放

一 御小人觸番等御門札紛失イタシ彼是申偽候者

一 御門ヲ無札ニテ出又ハ姓名ヲ偽リ御門通り候者

一 證文等出無之處ヲ妄ニ出入イタシ申偽等有之者

一 拾口札ニテ御門ヲ出候者又ハ他物ヲ偽リ御門出候者

御扶持放シ 輕キハ役儀取上過料

一 御門札ヲ容易ニ人ニ借シ候者

一 御小人等追込過料 但借リ候者ハ定之通過料

一 御門外ニテ致止宿候者

御扶持放シ又ハ御暇被下

但格別無據品ニテ致止宿候者カ又ハ不案内ニテ外口如何之

品モ無之筋ハ過料

一 メリ有之所ヲ無斷明ケ候者

御扶持放シ又ハ役儀取上

一 心得違與向エ入込候者

追込日數十日又ハ役儀取上

入込七候伊賀等急度追放

一 奥エ參聞敷筋ニ内々御座敷等物見爲致候ヘハ右之役人

差扣日數十日

一 番所ニテ他役之者ヲ休息等爲致候番人

追込過料

一 夜中局内エ胡亂成者入候ヲ取放シ候錠前番

一 御庭口番所エ商人等ヲ妄ニ入込七候番人

御扶持放シ 輕キハ追込過料

一 錠前番等失念イタシ錠下シ不申候ヘハ

役儀取上

一 御小人等番所明ケ候者

過料平詰

一 過料三百文

平詰十五日

一 御殿御茶屋等之御庭ヲ内々役人ヲ頼ミ拜見イタシ御メリ之内エ

入込候者

五里外追放

一 御殿御茶屋番人入込七候者

七里外追放

一 諸所御屋敷御庭之内等エ妄ニ入込候者

御扶持放シ

但役人等打廻リ之節心得違入込候ハ御呵

○儀制律 不敬 無禮

一 御藥又ハ御膳ニ付不念不調法有之候ヘハ其品ニヨリ掛リ之役人

輕重ニ御咎被 仰出

一 御通り筋エ參掛リ下座拔候者

逼塞

一 御儀式等之節 御前近ク駆通り又ハ不敬ニ相成候者

差扣日數十日

一 御方々様エ途中ニテ御時宜拔候者

差扣日數五日

一 召狀等之節遲參之筋

一 下乘内等ニテ笠着イタシ候者

一 御老中エ無禮等イタシ候筋

差扣日數七日 輕キ者ハ過料元極之通

一 以下役之者御用人以上□無禮等イタシ候者

追込日數五日

○倉庫律 御倉之物並官物取扱 拾物取扱

一 御倉奉行勤方等閑ニテ取メリ無之候カ出納ニ私曲偏頗等有之候

ヘハ

當役被 召放御扶持方被 仰付

一 預リ之御倉ニ有之物ヲ油斷ニテ盜マレ候カ又ハ官物類ヲ油斷リテ下役ヨリ掠取候ヲ不存候ヘハ

當役被 召放閉門被 仰付

一 金米等返納筋引取過有之候ヘハ御勘定役

一 免帳認落等有之御年貢納延引イタシ候ヘハ御代官

一 本計御極リ手形等元方御金藏エ之好書相違有之候ヘハ御代官

差扣日數五日ツ、

一 御小人等役目羽織等ヲ妄ニ置ニ置又ハ賣拂候カ其外役人官物ヲ鹿抹ニイタシ候者

御扶持放シ

一 村方浦方等困窮之節御救等早ク不願出又ハ差掛リ取計モ不致餓死人モ有之候ヘハ御代官勤方不心掛ニ付

輕キハ差扣日數二十日重キハ御役不應又ハ御役意ニ不叶律ヲ

以輕重ニ御咎被 仰付

一 右之節取扱不行届村役人ハ村役取上急度追込若御救米等出候ヲ差押不相渡又ハ手前エ引込候筋ハ官物ヲ盜トノ律ヲ以追放等申付

律(欄外・朱書——手塚註)

一 官庫並官物封印等イタシ有之候ヲ封印元エ掛合無之容易ニ封印候者

差扣日數十日

一 御倉ニ有之物ヲ役人受取渡シ之節早速取扱不致彼是遲留ニ及ヒ難儀イタシ候者モ有之候カ又ハ受取人納メ人先後有之候ヲ順次

ニヨリ受取渡シ不致候へハ夫々呵又ハ追込等可申付

一 町人等ヨリ音物取支配エ不達金米等相渡私曲等有之元ノ手代

十里外追放

一 拾物之儀訴出候へハ三日晒シ主出候ハ、金子ハ落シ主ト拾候者

へ半分宛爲取反物類ハ不殘主へ相返シ拾候者エハ落シ主ヨリ相

應ニ禮爲致可申

一 若落シ主相知不申候へ、六ヶ月見合彌主無之候ハ、拾候者エ不

殘爲取可申

一 拾物イタシ不訴出儀顯レ候へハ其者過料可申付

○祭祀律

一 御祭禮之節有暇之者和歌エ入込候得ハ

取扱之小頭等ハ

一 小頭役取上急度追込

一 御祭禮之節警固之者之示シヲ不用渡り物之妨ニ成御旅所ニテ高

聲ニイタシ役人エ過言等申候者

二十里外追放輕キハ十里外五里外追放

一 右等之外ハ、御祭禮之節之儀ニ付不調法等有之候へハ御用捨彼

仰出

一 有暇ヲ無暇之由聞合之節挨拶イタシ 御社參之御供ニ出候へハ

御目付當番逼塞

加番ハ差扣日數十日

一 神怪等捨事ヲイタシ人ヲ惑シ利ヲ貪リ候者

二十里外追放

一 御法事之節拜ニ出候面々差圖相紛レ不順ニ出候へハ掛リ之役人

差扣又ハ御呵

一 御法事之節御敷居外ニテ拜可致筋御敷居内ニテ拜イタシ候者

御目通り差扣日數五日

一 御法事ニ御參詣之節御番所エ不出御先手物頭

一 御佛殿方等エ 御代參可被遣處取計拔候へハ掛リ之役人

差扣日數十日ツ、

○關津律

拔荷 拔買 出奔追放立歸

一 船荷物ニ武器馬具等入組浦賀御役所等ニテ改ニ逢候者

逼塞

一 右ニ付御勘定奉行並八丁堀御藏奉行差扣被 仰付

一 關所難通類山越イタシ候者

磔

一 忍通り候者ハ追放

一 他所米等拔買イタシ候者

郡並御城下追放

一 度々他所米等拔買イタシ賣掛過分之掠米等イタシ候者

一 關所之上十里外十五里外二十里外追放

一 米改番人等上ヲ掠調略等イタシ候者

一 關所入墨之上二十里外追放

一 調略等不致候へ共拔買等ヲ不吟味ニ有之容易ニ差免候へハ

村追放 輕キハ 追込三十日

無斷女ヲ他國ニ奉公ニ肝煎候者

御城下追放

一 御引候ハ死罪

一 勾引候者ト馴合賣遣シ配分取候者ハ二十里外追放

一 娘等ヲ無斷他所ニ奉公ニ遣候者ハ追込

一 渡舟乘沈溺死有之候へハ其舟之水主

追込

一 都テ出奔立歸リ者ハ追放重ネテ立廻リ候ハ、重可申付旨申聞

但人足勤等イタシ候者立退又ハ立歸リ候へハ七里外追放何

之辨ナク立退又々立歸リ候者ハ御扶持放シ

一 都テ追放立歸リ者ハ下地之刑ヨリ二等重ク申付追放立歸之上盜

等イタシ候者ハ其品ニヨリ猶又重ク可申付

一 諸士改易被 仰付立歸リ候へハ如元追放重テ立廻リ候ハ、急度

可被 仰付旨申聞

一 諸士立退立歸リ候へハ國所御障リ追放重テ立廻リ候ハ、急度可

被 仰付旨申聞

一 諸士等出奔立歸不覺悟耻ヲモ不辨士之作法ヲ失ヒ候者ハ半腐申

付

一 追放立歸リ者ハ下地之刑ヨリ二等重ク申付立歸之上盜又ハ博奕

等イタシ候得ハ三等以上咎申付候等ニ付其品左ニ記ス

御城下追放

五里外追放

七里外追放

十里外追放

十五里外追放

二十里外追放

死罪

斬罪

○盜賊律

凡盜 強盜 上之物盜 盜之擄り者 巾着 切 カタリ 二重賣 横取

一 日之内人家エ參リ有合候輕キ品ヲ盜取候者

一 店先等ニ有之輕キ品ヲ立寄盜取候者

一 右體之小盜大樣度數二三度迄ハ五里外追放

一 日之内人家ニ有合候物ヲ盜取候カ又ハ店先等ニ有之物ヲ盜取候

小盜ニテモ大樣度數四度以上ハ

入墨之上七里外追放

一 江戸並京都等ニテ主人之手前欠落イタシ候者取遁等モ不致者ニ

候ハ、

七里外追放

但取遁等イタシ候へハ夜盜ニ准シ員數之多少ニヨリ輕重ニ

等申付

金子ハ拾兩ヨリ以上雜物ハ金ニ積拾兩以上ハ死罪右以下

ハ入墨追放

一 人家エ忍入夜盜イタシ候テモ人起合不得取候カ又ハ追テ相知レ内々ニテ被盜主エ不殘戻シ候者

入墨無之十里外追放

一 日之内人家之輕キ品ヲ盜取又ハ店先等之輕キ品ヲ盜取候者度數少ク候テモ博奕ヲモイタシ候カ又ハ喧嘩等イタシ候カ又ハ親兄等ニ義絶ニ逢候カ又ハ吟味之節彼是申偽候者

入墨ノ上十里外追放(この法定刑は原本には脱——刑法比照により補綴する——手塚註)

一 人家エ忍入夜盜イタシ候者

但度數三度迄

一 野アラシ致候者

一 人家之外ニ積置有之候材木切木等ヲ夜分盜取候者

一 船頭水主等船中之荷物ヲ盜取候者

入墨之上十里外追放

一 打荷或ハ破船ト偽荷物ヲ押領イタシ候船頭上乘水主咎之品並遭難風打荷イタシ候荷物ヲ盜取候船頭ト馴合配分取候者等咎之品

公裁之趣ヲ以取計可申

一 公裁 一 打荷或ハ破船ト偽荷物ヲ押領イタシ候者

船頭 獄門

上乘 同罪 水主

一 遭難風打荷イタシ候荷物ヲ盜取候船頭ト馴合浦證文

差出配分取候者

於其所獄門

一 同盜物自分土藏エ入預リ置致配分候者

死罪

一 船頭ト同宿馴合村中之者エ申勸致配分候者

遠島

一 同百姓之内重立持運世話イタシ配分取候者

重追放

一 同盜荷物配分取候者

配分之品取上

村高ニ應シ過料

一 所々ニテ致盜候者

度數五度ヨリ七八度迄

一 盜之度數少候テモ員數多盜取候者

大樣金五兩以上雜物金ニ積リ五兩以上

一 親等ニ義絶ニ逢候上夜盜イタシ候者又ハ夜盜イタシ候ウヘ博奕ヲモイタシ候者又ハ喧嘩口論等イタシ候者扨ト盜之度數等少候テモ

兩脇ニ入墨之上二十里外追放

但致博奕候者ハ家財欠所之管

一 出奔立歸之ウヘ致盜候者

大樣度數二三度迄

一 出奔立歸之上博奕イタシ候者

一 兩脇エ入墨之ウヘ追放重テ立廻候ハ、可爲死罪旨申聞

一 出奔立歸盜並博奕ヲモ致候者

但盜之度數大樣四五度以上

一 盜之品工ミ候テ致候者工ミ成申掛イタシ金子等カタリ取候者

度數等ニ不拘

一 重キ御役人之家來ト僞リカタリイタシ候者

同

一 片輪者ノ品ヲ盜取候者

同

一 押込切剝

同

一 盜之手引イタシ候者

一 所々ニテ致盜候者

一 大様度數十度以上

一 度數少候テモ員數格別多盜取候者

一 大様金拾兩以上雜物金ニ積リ拾兩以上

一 金子入之書狀受取道中ニテ切解遺捨候飛脚

一 金高多少ニ不拘

一 盜ニ可入トシテ刃ニテ人ニ疵附候者

一 親等ニ義絶ニ逢候上所々ニテ致盜候者

一 度數十度以下ニテモ

一 使ニ爲持遣シ候品取遁イタシ候者

一 金子ハ壹兩ヨリ以上雜物ハ代金ニ積リ壹兩位ヨリ以上

一 死罪又ハ斬罪

但押込切剝之類

頭取ハ梟首

一 金高脇書ニイタシ有之筋右ヨリ以下ハ入墨追放

一 上ヲ掠メ調略等致シ候者

一 上之物ヲ盜取候者

和歌山藩國律

輕キハ 闕所之上死罪

重キハ 斬罪 梟首

但一通リ之官物類ヲ盜取候者之儀輕キハ闕所追放最輕キハ

闕所ニ不及追放

但調略等之品當人有跡不致白狀外ニルト致シ候調據モ無之

疑罪ニ相成調略之本科ニ難處筋ハ闕所牢腐

一 調略之筋ニテモ親兄弟等ヨリ不踐償候ハ一命被助闕所

之ウヘ七里外追放 重キハ十五里外追放

十里外追放

一 人ヲ殺シ致盜候者

一 盜ニ入刃ニテ人ニ疵附候者

斬罪梟首

但盜ニ入刃ニテ無之他物ニテ人ニ疵附候ハ死罪

一 人家ニ火ヲ附致盜候者

引廻之上火罪

一 他所エ巾着切ニ參候者

鼻ヲ剃追放

但毎ニ參候ヘハ死罪可申付

一 都テ親類之方エ盜ニ入候者ハ近キ親類ハ常盜ニ二等輕ク處シ遠

類ハ常盜ニ一等輕ク處スヘシ

一 盜宿イタシ盜ミ之申合ヲモイタシ盜物ヲ配分イタシ候者盜ニ不

入候テモ盜人ト同罪

一 取遁之雜物ヲ預リ置配分イタシ又ハ禮金等取當人ヲ隠シ置候者

ハ盜宿ト同罪

一 胡亂者改總廻リ等盜人ヲ容易ニ追拂私欲等有之者

郡並七里外追放重テ立廻リ候ハ、重可申付旨申聞

但一通リ取扱不念ニテ私欲無之筋ハ

追込日數二十日

- 一 胡亂者改等ニテ無之盜人ヲ捕盜物取返シ内證ニテ遁シ遣候者ハ呵
- 一 盜人ヲ止宿爲致候ウヘ盜之申合ハ不致候ヘ共盜物ヲ質ニ置遣シ又ハ賣拂遣シ或ハ貰ヒ並世話煎遣候者

五里外追放

在中之者ハ郡追放

- 一 盜人ヲ乍存止宿等爲致候カ無宿立歸者ヲ乍存差置候者
- 一 盜物ヲ乍存質ニ置遣シ候カ又ハ賣拂遣シ候者又ハ貰候者預リ置候者

- 一 盜物ヲ證人ニ立賣ラセ又ハ質ニ置セ候者
- 一 盜人並無宿立歸者等ヲ乍存受ニ立家等借遣シ世話致シ遣候者

- 一 盜物ト乍存下直ニ買取候者

御城下追放又ハ村追放

輕キハ

居町居村追拂

但盜人之妻ハ搦リ次第ニテ輕重ニ咎申付

- 一 盜人又ハ立歸無宿者ヲ不存借屋等ニ差置候大屋家代
- 一 盜人並立歸無宿者等ヲ不存受ニ立借屋等借リ遣候者
- 一 盜人並立歸無宿者ヲ町内ニ差置候丁役並村内ニ差置候庄屋肝煎

追込之ウヘ過料

追込日數十五日

追込十日

過料錢三百文 ツ、輕キハ 過料二百文ツ、

- 一 盜人並無宿立歸者等ヲ不存立廻リヲ止宿等爲致候者
- 一 盜人並無宿立歸者等ヲ受人有之ニ付不相糺雇置候者
- 一 盜物ヲ不存質ニ置遣候カ又ハ賣拂遣シ候者
- 一 盜物ヲ不存質ニ取候質屋

追込日數十五日

- 一 盜人並無宿者等ヲ差置候者之向三軒兩隣

久々差置候者ハ

追込日數十五日

折々立廻ラセ候者ハ

急度呵

- 一 盜物ヲ不存買取候者
- 一 被盜主被盜物ヲ見及内々ニテ取戻シ候者
- 一 急度呵

- 一 盜物ヲ不存買取追テ相知レ役所エ不申出内々ニテ取扱候者

過料貳百文ツ、

同 五百文

古手買 古鐵買 質屋

但申偽候カ又ハ如何之品有之者ハ

居町追拂

- 一 郡テ追放立歸者ハ下地之刑ヨリ二等重ク申付候管ニ付盜賊等追放之節重テ立廻リ候ハ、重ク可申付又ハ死罪可申付旨申聞
- 一 諸商物代金受取其品不渡外エ二重賣イタシ又ハ取次可遣品質ニ置並賣拂或ハ金銀櫛取イタシ候者ハ盜賊取遁同様金于ハ拾兩ヨリ以上雜物ハ金ニ積リ十兩以上ハ死罪申付右以下ハ入墨追放可

申付

- 一 田畑屋敷二重質入イタシ候者モ盗ニ准シ候儀ニ付質入主六十里外追放加判人ハ町拂可申付

國律 坤

國律卷之下

○人命律 主殺親殺等 凡殺傷

- 一 主ヲ殺候者
- 一 鋤挽ノ上磔 但故主ヲ殺候者斬罪梟首
- 一 主ヲ手負セ候者
- 一 晒シ之上磔 但切掛候得者死罪
- 一 父母祖父母ヲ殺候者
- 一 引廻シ之上磔
- 一 父母祖父母ヲ手負セ候者
- 一 磔 但切掛候ヘハ死罪
- 一 主ノ親類ヲ殺候者
- 一 斬罪梟首 手負セ候ヘハ死罪
- 一 夫ヲ殺候妻妾
- 一 磔 手負セ候ヘハ死罪
- 一 夫ノ父母祖父母ヲ殺候妻妾
- 一 同前 同前

和歌山藩國律

師匠ヲ殺候者

- 一 斬罪梟首 手負セ候ヘハ死罪
- 一 兄弟伯叔父姑ヲ殺候者
- 一 斬罪梟首
- 一 兄弟伯叔父姑ヲ刃ニテ傷ケ候者
- 一 死罪 但過失ニテ傷ケ候ヘハ二十里外追放
- 一 亂心ニテ刀ヲ拔親等ニ當リ親等果候カ又ハ至愚ニテ無辨者親等ヲ殺候ヘハ
- 一 死罪 諸士ハ切腹
- 一 親兄等ヲ傷ケ其身自殺イタシ候者
- 一 死骸討首
- 一 口論等ニテ人ヲ殺候者
- 一 牛馬ヲ引カケ人ヲ殺候者
- 一 死罪 但兼テ可殺所存有之候テ人ヲ殺候者ハ一等重ク申付
- 一 差圖イタシ人ヲ爲殺候者
- 一 同前 但差圖ヲ受人ヲ殺候者ハ追放
- 一 人ヲ傷ケ右疵ニテ果候ヘハ
- 一 同前 但疵養生ノ内餘病ニテ死候ヘハ傷クル刑同様
- 一 一家無罪ノ者三人以上殺シ候者
- 一 磔
- 一 自分ノ惡事可顯ヲ恐レ其人ヲ可致殺害トシテ疵附或詮議シタル人ニ遺恨ヲ含手ヲ負セ候者
- 一 死罪 但切殺候ヘハ梟首
- 一 口論等ニテ人ヲ傷ケ候者

四七

(四三九)

一通リ傷ケ候へハ 御城下追放或ハ五里外追放

片輪ニイタシ候へハ十里外追放渡世難成程之片輪ニイタシ候

へハ二十外追放(里の字脱か——手塚註)

諸士口論等ニテ諸士ヲ殺候へハ

切腹

輕キ者口論等ニテ諸士ヲ殺候へハ

斬罪 但支配ヲ受候人ヲ殺候へハ斬罪梟首手負セ候へハ死罪

諸士輕キ者ヲ殺傷イタシ候ヲ其者之子又ハ妻等諸士ヲ報殺イタ

シ候へハ

死罪

怪我ニテ刃等人ニ當リ右疵ニテ果候へハ怪我人ノ親類等存念相

尋候ウへ

十里外追放 但何トカ品有之候へハ一等重申付

弓鐵砲ヲ放アヤマチニテ人ヲ殺候へハ怪我人ノ親類相尋候ウへ

二十里外追放

相手理不盡ノ仕方ニテ不得止事切殺候へハ被殺候者平日不法ナ

ル者ニテ親類等申分無之候へハ

一命被助追放

定リタル射場鐵砲場ニテ不慮ニ人參掛リ若矢玉當リ其人死候へ

ハ

咎ニ不及三十日遠慮申付

十五歳以下之者子心ニテ無辨人ヲ殺候へハ

一命被助二十里外追放 但十五歳迄親類へ預置

人ヲ殺タル様子ナレ共常人白狀不 [] 尔ト證據モ無之疑

罪ニ成候者

牢腐

博奕イタシ人ヲ殺候者

家財關所死罪

盜イタシ人ヲ殺候者

斬罪梟首

拔米拔荷等イタシ番人ヲ殺候者

磔 親兄等右ヲ承知之者關所追放

盜ニ入タル者ヲ打殺シ内濟ニイタシ候者

五里外追放 彼是申候候へハ一等重ク申付

親兄伯叔父姑等殺害ニ逢候ヲ内々ニテ濟セ候者

二十里外追放

子弟甥姪等人ニ被殺候ヲ内々ニテ濟セ候者

御城下追放並村追放

一分モ無之實子養子並弟甥姪等ヲ殺候者

二十里外追放 但利欲ヲ以殺候へハ死罪

子弟等不埒之品有之難差置手打ニイタシ候筋

ハ格別ニ候事

一 夫之前妻ノ子ヲ殺候者

同前 但欲心ヲ以殺シ候へハ死罪

一 諸士輕キ者ノ惡口手向等イタシ候者ヲ手疵負セ不締リナル致方

ニ有之候へハ

閉門

手向イタシ候者

十里外

十五里外

二十里外

追放

一 諸士御日柄ニ慮外者ヲ手打ニイタシ其段申込候ヘハ不及何等

一 以下之者ニテモ輕キ町人百姓之身トシテ法外之雜言等不届之仕形有之不得止事切殺候ヘハ

吟味之上相違無之ニ於テハ不及何等

一 御扶持人等口論又ハ酒狂ニテ人ニ傷ケ候者

御扶持放シ又ハ御城下追放

但御日柄ヲ不辨及刃傷候得者十里外追放

一 御扶持人等口論之上人ニ傷ケ前後取締ラサル者

御城下追放或ハ五里外追放

一 人殺之手引イタシ候者

二十里外追放 但殺シ候當人致決落不出候ヘハ手引之者死罪

一 人殺ニ手傳イタシ候者

同前 但兼テ巧ミ候ニテ無之鬨諍難見捨致助力候者ハ七里外

追放

一 人殺ニ手傳ハ不致候ヘトモ致荷擔候者

十里外追放 當座之口論之ウヘ人殺之荷擔イタシ候ハ一等輕

申付

一 大勢ニテ人ヲ打殺候節初發ニ打掛リ候者

死罪

一 御扶持人等人ニ切付ラレ遁去候者又ハ大小モキ取^(まま)レ候者

刀脇差取 御城下追放

一 盜等イタシ候ウヘ手斑負ヒ候者

盜之多少ニヨリ 十里外

十五里外追放

一 人足等無□ニテ御門外ヘ出手斑負ヒ候者

二十里外

一 五里外追放

一 亂心ニテ人ヲ殺候者

牢腐

一 亂心ニテ人ニ傷ケ候者

一類之方ヘ引取急度押込置

一 亂心者ニ傷ケラレ意趣遺恨等無之口論等モ不致者ハ何等ニ不及

一 送ニ幼少之者子共心ニテ口論イタシ及刃傷候ヘハ雙方共何等ニ

不及

一 諸士之子弟輕キ者ト口論之上切附候處相手□大小取ラレ遁去候

ヘハ

十里外改易

一 相手之輕キ者 二十里外追放

一 父母祖父母ヲ毒害イタシ掛候者

死罪 別居候者ハ家財闕所

一 兄弟伯叔父姑ヲ毒害イタシ掛候者

家財闕所之上死罪

右ニ組シ候者死罪又ハ追放

但毒藥賣候者ハ死罪

一 人ヲ毒害イタシ候者

斬罪梟首

但毒害イタシ掛候テモ死ニ至不申候ヘハ追放

離別之妻ニ疵附候者

入墨之上追放

一家燒失之節祖父母母燒死候ヲ見捨遁出候者

死罪 但兄弟伯叔父姑ヲ燒死爲致候者ヘ追放

不義ニテ相對死イタシ候男女ハ死骸取捨爲吊申間敷候

但一方存命ニ候ハ、死罪雙方存命ニ候ハ、徒三年

金子ヲ添候捨子ヲ貰其子ヲ捨候者

斬罪梟首

但メ殺切殺候ヘハ一等重ク申付

捨子有之ヲ内證ニテ隣丁ヘ又候捨候者

居町追拂

○鬪毆律 不孝不順 喧嘩口論 狼藉 過言

一 主ヲ打擲イタシ候者父母祖父母ヲ打擲イタシ候者

死罪 傷ケ候ヘハ斬罪

一 夫之父母祖父母ヲ打擲イタシ候者

傷ケ候ヘハ

死罪 但過失ニテ傷ケ候ヘハ二十里外追放

一 兄弟伯叔父姑ト口論打擲イタシ候者

十里外追放 但傷ケ候ヘハ二十里外追放

一 常々親ト爭論等イタシ不孝不順ニ有之由親並一類ヨリ訴出候ヘ

ハ

二十里外追放又ハ御暇被下

格別甚敷者ハ

死罪

一 殿中等ニテ口論敲合候者

五里外追放又ハ七里外追放

但大勢ニテ敲合候ヘハ頭取候者ハ二十里外追放

一 子弟之者ハ

一 酒狂ニテ人ヲ打擲イタシ又ハ傷ケ候者

御城下追放

但酒狂ニテ諸道具損イタシ候者ハ損失之道具償申付償不成

者ハ御城下追放

一 坊主陸尺等番部屋ニテ致口論候者

急度追込 重キハ 御扶持放

一 口論イタシ候ヘトモ當座之儀ヲ申募候迄ニテ兼テ意趣等無之者

追込日數十日又ハ二十日

一 御小人等御供先ニテ致口論候者

過料錢三百文 甚敷者ハ追込之上重ク過料

一 意趣ヲ舍大勢催シ人家ヲ打潰シ山林等ヲ伐荒シ候者

頭取ハ

死罪又ハ家財隠所二十里外追放

但人ヲ殺候ヘハ頭取之者斬罪梟首

申合候者ハ

輕重ニヨリ十五里外十里外七里外等追放
相談ニ不加候ヘトモ申合之席ヘ參候者
急度追込四十日ツ、

庄屋肝煎 追込十日ツ、
總百姓 急度呵

一 申合石打等イタシ候者
頭取ハ

五里外又ハ七里外追放在中之者ハ郡追放

申合イタシ候者

町追放 村追放

一 申合致狼藉諸道具等損サシ候者

同前

一 役人之申付ヲ受用不致役人ト致口論又ハ過言等申候者又ハ諸士

ヘ對シ慮外ヲ申口論等イタシ候者

御城下追放又ハ五里外追放

一 諸士改易被仰付候處慎ミ不相越役人之申聞ヲ受用不致權柄ヲ申

上ヲ不憚筋ハ

死罪

○訴訟律 直訴越訴投文

一 難相立品ヲ直訴イタシ候者

五里外並郡追放

右以後モ又々致越訴候ヘハ一二等重ク申付

一 頭取候テ村中一味之判形等取大勢ヲ催越訴イタシ外ニ上ヲ掠メ
候致方モ有之者
家財闕所死罪

頭取ニ差續キ候者闕所郡並十五里外追放
十里外
二十里外

村役人 村役取上追込
總百姓 過料

但上ヲ掠候致方無之候ヘハ闕所ニ不及

一 勢州ニテハ勢州御領分追放紀州御城下ヘ立廻リ申聞數旨
申聞

一 頭取無之百姓大勢越訴イタシ候ヘハ

過料 跡々之通

一 難相立品ヲ御老中宅ヘ致越訴候者

御城下追放

一 難相立品ヲ 公儀ヘ致越訴候者

在郷ヘ押込置

一 越訴之頭取イタシ村中同心爲致候爲無昧之品廻狀等廻シ大勢致

出訴事ヲ巧ミ候致方等有之者

死罪

一 一通リ越訴之頭取イタシ候村役人等

郡並十里外二十里外追放

一 勢州ハ勢州御領分追放前段ニ有之通申聞

頭取ニテ無之越訴相談申合之取計イタシ候者

郡並御城下追放

一 越訴相談ニ加リ又ハ廻狀等認持廻リ候者

過料之上追込日數七十日

越訴ヲ乍存差留不申其段不申出村役人

村役取上追込日數五十日

越訴ヲ不存村役人

追込日數三十日品ニヨリ村役取上

無辨越訴ニ誘レ出候總百姓過料跡々之通

但難澁村之儀ハ御用捨急度呵

越訴ニ出候村之一組大庄屋

追込日數三十日

右ニ付御代官自今之儀被仰聞

越訴等有之節差押ヘ不爲加徒黨筋モ有之候ヘハ

御褒美銀被下

徒黨イタシ小頭ヲ差置支配ヘ致直訴候者

御扶持放シ 御城下追放

御小人等頭取御用部屋等ヘ致直訴候者

五里外追放

總御小人ハ重ク過料五百文ツ、

他所御屋敷相勤候御中間等申合支配ヘ致直訴候ヘハ

頭取候者

七里外追放 在中之者ハ郡ヲモ追放

十里外追放

申合候者ハ右ニ準シ五里外又ハ御城下追放

名印無之投文イタシ人ノ罪ヲ告訴イタシ候者

十里外

十五里外追放

二十里外

主人並親惡事有之由僞ヲ申掛訴人ニ出候者

磔

○詐僞律 僞金銀 僞札 謀書 謀判 僞物賣

僞金銀僞札取扱候者

斬罪梟首 重キハ磔

僞秤僞升拵候者右ニ准ス

但僞升入目僞秤掛目違無之候ヘハ追放

似藥種賣候者

死罪又ハ追放

此外之似物人命不掛筋ハ輕ク咎ヘシ

賣人買人ヲ拵似物賣候者

入罾之上七里外十里外追放

銀燒付ヲ正銀之積ニ申賣候者

五里外又ハ七里外追放 重キハ入罾

謀書謀判イタシ候者

闕所之ウヘ死罪 重キハ 斬罪梟首

輕キハ 闕所二十里外追放

謀書謀判等イタシ候者若貧苦之者兩親等之病用拵ニテ興風心得

違取扱候筋ハ

五里外追放 輕キハ 御城下追放

子弟謀判等イタシ候者ヲ差置候親兄

十里外追放

但本人之科之輕重ニヨリ親兄等モ右ニ准シ輕重ニ答申付

一人ニ頼マレ謀書等認遣シ候者

輕キハ御扶持人ハ御扶持放シ御城下追放

十里外

重キハ十五里外追放

二十里外

御扶持方手形等相紛レ二重ニ入御扶持方受取候者

當役被召放

御紋附之挑灯又ハ繪符等ヲ拵役人之名ヲ偽リ稱シ調略私欲等致

候者

關所入墨之ウヘ二十里外追放

但重キ御役人ノ家來ト偽カタリ並調略私欲等イタシ候者ハ

死罪

一 諸士謀書等イタシ金銀調略且無實ヲ申掛士ニ不似合品有之筋

一 一命被助牢腐

一 養子縁組等其外願之品ニ付 上ヲ偽リ候者

一 二十里外改易

一 願之品取組□格別調略成筋ハ

牢腐

右取組ニ掛リ候筋二十里外改易

一 願之品紛ハ敷趣キ有之筋

逼塞

○犯姦律

密通 姦通 強通 惡所宿リ

一 密通之者雙方十里外追放

但女ハ髮ヲ剃追放

一 親等ノ異見ヲ不用密通ニ募リ候筋ハ本文之通申付品輕キ

筋ハ七里外五里外又ハ御城下追放

一 姦通之者雙方二十里外追放

但女ハ同前

一 主人之妻ト姦通イタシ候者ハ死罪

但妻ハ二十里外追放

一 密通姦通共女ヲ殺候者

死罪

一 密通イタシ男ヲ可殺タメ又ニテ手負セ候女

髮ヲ剃二十里外追放

一 但男ハ本罪ヲ以輕重ニ答申付

強通之者ハ死罪又ハ二十里外追放女ハ不及何等

一 但強通ニテモ追テ和通ニ成候ヘハ女モ追放

一 養母養女並嫁ト致密通候者ハ死罪

一 姉妹姑姪ト密通イタシ候者ハ追放

一 姦通イタシ相謀テ本夫ヲ殺害イタシ候者

姦婦ハ引廻シ之上 磔

姦夫ハ 斬罪梟首

一 但姦夫姦婦ヨリ本夫ヲ傷ケ候ヘハ一等ヲ減ス

一 姦夫若本夫ヲ殺害スレハ姦婦其情ヲ不知トイヘトモ死罪

一 姦夫姦婦ヲ本夫殺候ヘハ不及何等

一 姦夫ヲ殺シ妻存命ニ候ヘハ

死罪

但姦夫逃亡候ハ、妻ハ夫之心次第

一 密通姦通之手引イタシ候者ハ本人ヨリ二三等輕ク申付

一 密通姦通ノ宿イタシ平日右等之世話等イタシ候者ハ本人ヨリ一
二等輕ク申付

一 輕キ者諸士之娘姉妹ト密通内々ニテ妻トイタシ候者
死罪

但妻ニ不致一通リ之密通ハ追放女ハ髮ヲ剃親方ヘ渡ヌ

右ニ付親兄等其儘ニ致置候筋ハ御暇被下又ハ當役被召放

一 出家之儀ハ密通姦通共平人之罪ヨリ一二等重ク申付

但密通ハ所持二十里外追放所化ハ本寺ヘ渡シ寺法之通取計
姦通ハ所持所化之差別ナク梟首

一 密通出奔立歸之者

追放重テ立廻リ候ハ、可爲死罪旨申聞

但女ハ髮ヲ剃追放

一 惡所ヘ參候者

當役被召放又ハ御扶持被召放

一通リ立寄候者ハ

追込過料

一 背キ之衣類等着イタシ罷越候ヘハ

追込之ウヘ重ク過料

一 御門札等調略イタシ罷出又ハ背キ之衣類等着イタシ罷越其

上止宿ヲモイタシ候ヘハ

御扶持放シ又ハ役取上重ク過料

一 止宿ヲモイタシ外ニ如何之品等有之吟味之節彼是申僞候ヘ

ハ品之輕重ニ應シ五里外又ハ七里外追放

一 役人等打廻リ□託シ一人罷越止宿ヲモイタシ候ヘハ同前申
付

一 毎々罷越致止宿且格別如何之品等有之筋ハ十里外二十里外
追放

一 下女下男之密通

主人ヘ引渡□之通咎申付

一 町人等下女ト致密通候ヘハ

男ヘ追放女ハ主人ヘ引渡ヌ

一 隠賣女イタシ候者並踊子ヲ抱置賣女爲致候者
身上ニ應シ過料ノウヘ百日手鎖所預

一 踊子呼寄賣女爲致候料理茶屋

居町追拂 家主ハ過料
都テ密通御仕置ハ妻妾差別無之

○雜犯律

火附 火事 砲禁 博奕 芝居見物
不覺悟 不行跡不埒 不勤不愼 不心得

一 人家ニ火ヲ附候者

引廻シ之ウヘ火罪

但人ニ被頼火ヲ附候者ハ死罪

頼候者ハ火罪

一 亂心ニテ火ヲ附候亂心之證據不分明ニ候ヘハ死罪若亂心
ニ無紛候ヘハ親類ヘ預急度押込置

一 火ヲ附候様子ニ候得共當人白狀不致アルト證據モ無之疑罪相成候者

一 命被助牢觸又ハ追放

一 幼少之者辨モ無之火ヲ附候ヘハ火ヲ鹿抹ニ取扱候トノ科ニテ

一 命被助追放

里數ハ其品々ニテ可極

火役火事之節不出其段不屈者

逼塞

一 火役ニテ無之面々御近火之節不出其段屈拔並屈延引之筋

差扣日數十日

但格別大病等ニテ且屈手紙等間違不達筋杯ハ差扣日數三日

過御免

一 火事役所明キ作略不致候御先手物頭等差扣日數十日

一 居宅遠方ニテ御近火ヲ不存追テ承リ其段斷候筋

御目通差扣

一 殿中ニテ火ヲ鹿抹ニイタシ候坊主陸尺等

御扶持放シ

一 居御長屋等留守之内出火有之候ヘハ

逼塞 召仕小者十里外追放

但少々フスホリ候程ニテ候ヘハ

差扣日數十日

一 居宅出火有之候ヘハ

差扣日數二十日

但江戸留守等ハ

和歌山藩國律

差扣日數十日

一 小火之儀ハ御用捨

一 預リ之御道具等燒失イタシ候ヘハ

逼塞

一 火事之節馬上ニテ可入役人ニテ無之者大御門入候カ又ハ御屋敷

内馬上イタシ候ヘハ

差扣日數五日

一 御免場ニテ威鐵砲免シ郡方ヘ爲願不申筋

差扣日數二十日

一 御場内ニテ鐵砲打致殺生候者

十里外追放

一 御留場ニテ致殺生又ハ御留川ニテ網等打候ヘハ

五里外追放又ハ郡追放

一 御場内ニテ鐵砲打候ヲ内々ニテ濟シ謝禮等取扱廻リ役人

入墨之ウヘ郡並十里外追放

但謝禮等不取者ハ入墨無之

一 手形無之鐵砲ヲ持在中通リ候者

郡追放

頼マレ持候者ハ村追放

一 御免場ニテ盜殺生イタシ候者

牢舍日數二十日

一 御免場ニテ威鐵砲ニ不限都テ郡方ヘ掛合候筋之儀ヲ掛合無之差

免候ヘハ威鐵砲之律ニ准シ御咎被仰出

一 博奕イタシ候咎振實政七卯年定リ之趣同年之別帳 張出帳ニ委ク

出

一 江戸ニテ芝居見物等ニ參候者

諸士ハ

閉門

以下役ハ

急度押込百日

一 子弟等芝居へ參り候へハ

急度押込百日

親兄ハ差扣日數二十日

一 御小人目付御門番人其外役人等芝居へ參候へハ

御扶持放シ又勤取上

一 坊主手代陸尺等芝居へ參候へハ

追込之ウへ過料

追込十日過料金壹歩

一 諸士土ニ不似合躰ニテ罷在候者

一 喧嘩等之場所ニテ遁去候者

一 喧嘩等ニテ大小ヲ奪取ラレ候者

一 人ニ打擲ニ逢武道ヲ失ヒ候者

十里外

十五里外改易追放

二十里外

甚敷筋ハ

刀脇差ヲ取追放

輕キハ

當役被召放

一 子弟等右之通仰付候へハ親兄

逼塞

一 不行跡不埒之品風聞言上有之候者

十里外

十五里外改易追放

二十里外

又ハ

御暇被下御城下ヨリ何里之内ニ罷在間數旨

次ハ

知行御切米被召放

次ハ當役被召放逼塞

一 勤方不宜筋不動之筋不愼之品有之筋品之輕重ニヨリ大樣

重キハ

十里外

十五里外改易追放

二十里外

又ハ

知行御切米被召放御扶持方被 仰付逼塞

又ハ

當役被召放 輕キ者ハ 御扶持放シ

又ハ

逼塞被 仰付番外ニテ罷在旨

御役不應之者

寄合大御番小普請ヨリ被 仰付候者ハ前役口跡番御足米等上

ル 一 不勝手ニテ御役相願候得者寄合大御番小普請等被 仰付御

足米等上リ候テハ難澁トノ品ヲ以相應之儀ニ轉役之儀申立候筋モ同様取計年數相動候者ハ差別可有之

一 御役替之筋ハ當役之並高之御足米上ル前役へ歸役但當役被仰付候節御加増被下候筋ハ前役之勤功ニ付其儘被下前役明

キ無之候ハ、過ニ被 仰付或ハ前役之格祿程之場所へ御役替又ハ小普請入先役ノ御足米御扶持方其儘被下

御役意ニ不叶動方之者

重キハ

御役被召放當役ニテ之御加増御取上御足米勿論上ル

中ハ

前役ニ不拘頭役ハ寄合平士ハ無事ニ御役引候節大御番へ被仰付候筋ハ大御番格小普請御足米御扶持方等上ル

輕キハ

御役不應之同例

病氣等ニテ十ヶ年勤無之者

御扶持方被 仰付

一 輿勤之輩不行跡不勤不愼之品等相聞イマタ御咎被 仰出候程之儀ニ無之筋ハ先頭支配ヲ以響セ候儀取計猶改不申候へハ御咎被仰出

一 申込之内公用之外私禮ニ罷越候者

一 差扣之内御供ニ出候者

一 差扣之内御火事ニ出候者

一 差扣御免被 仰出候節月代イタシ罷出候者

一 差扣日數七日ツ、

和歌山藩國律

和歌山藩國律

和歌山藩國律

和歌山藩國律

○捕亡律 牢拔 圍拔

一 御預者圍拔

死罪 品ニヨリ一命被助田邊へ遣シ押込置

科人牢拔

斬罪 又ハ本罪ヨリ二等重ク申付

一 御預者圍拔之節御先手物頭

但番人ヲ殺シ遁出候へハ斬罪梟首又ハ磔

二十里外改易

番人

一 闕所二十里外追放

牢拔之者有之候へハ牢番人

郡並七里外追放

但幼少之番人者

村追放

七十餘ノ番人ハ用捨

一 牢舍者ニ双物ヲ借シ又ハ煙草ヲ吸セ候テ格子ヲ切破リ又ハ燒焦シ牢ヲ拔出候へハ牢番人

郡並十里外追放

一 牢拔之者有之節

村役人 追込日數二十日

一 御代官 差扣日數十日

一 圍入又ハ番附候者遁出候カ又ハ自害等イタシ候ヲ不存番人足

御扶持放シ

一 公訴イタシ候者ヲ親類ニ預押込置候處拔出又々公訴致候ヘハ右

親類

郡追放

但公訴イタシ候者ハ癩急度押込置

一 屋敷長屋等ニ差置候者又ハ家來等宅番申付有之候處右之者邁

去候ヘハ

差扣日數十日

○斷獄律

一 老人七十幼者十五並廢疾之者ハ拷問ヲ免スヘシ
以上幼者以下

一 婦人罪アル者ハ男子ト同様無輕重刑取扱ヘシ

一 十惡並強盜等之外ハ立春以後秋分以前死刑取扱見合可申

一 吟味事之内ヨリ外惡事相聞候共舊惡御定之外ハ不及相糺

一 總テ詮議事有之内同類又ハ加判人等之内ヨリ早速白狀イタシ依

之謀計之者相顯ニ於テハ早速白狀之者ハ本罪相當ヨリ一等輕

ク申付ヘシ

一 吟味者一件之内缺落者不尋出候ヘハ其餘致白狀候分御仕置可申

付

一 盲人御仕置ハ追放等ニ可成科ハ親類ニ預置居町居村之外猥ニ律

徇致問敷旨申付

一 斷獄之役人賄賂ヲ取無罪之者ニ罪ヲ加ヘ有罪之者ヲ罪ヲ脱セシ

ムルノ類ハ其輕重ニコリ咎可申付

一 牢舎圍入之者吟味之筋笥ニ平人ヲ指テ同類トナシ自分ノ罪ヲ分

タントスルノ類ハ本罪ヨリ一等モ重ク申付ヘシ

一 裁許不受者並裁許相濟候儀ヲ内證ニテ破リ候者ハ七里外十里外

追放可申付

○寺社律

一 出家不行跡不愼等之品有之者

追寺追院

重キハ

脱衣之ウヘ十里外二十里外追放

他所者ハ

脱衣之ウヘ御領分追放

一 法衣色衣等猥リニ着イタシ其外宗旨法義等ニ背キ候者

退寺退院

一 都テ出家不相應之儀有之者ハ

住職取上其所ニ罷在問敷旨申聞

一 出家博奕又ハ誼譁口論人ヲ殺傷スルノ類有之候ヘハ

平人罪ヲ犯シ候者同様刑可申付

一 新規ノ寺社等私ニ取建候ヘハ

村役人等

急度追込之上取拂セ可申

一 不願シテ私ニ出家ニ成候者

追込之上還俗申付

追込日數二十日

一 願モ無之出家イタシ他所へ罷越候者

御城下追放

一 寺院開帳等之節賑輕業等背之品爲致候者

追込日數二十日

右之節庄屋肝煎等

追込過料

一 役所聞屈不相濟内輕業等初其上背キ之品有之候へハ

急度追込

一 妄ニ鳥居等立神名ヲ改其外巧之品有之社人富守等

十里外追放

一 異死之者ヲ内證ニテ葬候寺院

逼塞

○連及律 親類 支配

一 諸士之親子兄弟伯叔父甥等立退又ハ御咎等被 仰出候節親類申

込遠慮等之品遠慮本宛帳ニ委ケ出

一 子弟等立退候節所々相尋候内屈延引有之候へハ延引之日數等ニ

應シ或ハ十日或二十日或ハ三十日差扣被 仰付

一 御留守ニ立退候者ハ國所御障之儀親類へ被 仰聞

御咎等被 仰出候品有之者立退候へハ居所相知次第御引戻シ急

度可被 仰付條御搆ハ不被 仰出之旨親類へ被 仰聞

一 役人等相動候者立退其上不行跡不屈之品相聞候筋モ同様之趣親

和歌山藩國律

類へ被 仰聞

一 立退候者士ニ不似合□□方等相聞候筋ハ御搆ハ不被 仰出旨親

類へ被 仰聞

一 配下並組下等御咎被 仰出候へハ頭支配並組頭差扣被 仰付品

ニヨリ自今之儀被 仰聞

一 頭支配ヨリ兼テ達等有之筋ハ御用捨

御咎被 仰付候者兼テ之不行跡ニテモ無之候へハ御用捨

一 江戸ニテ御咎被 仰付頭支配若山ニ罷在候ハ若山ニテ御咎被

仰付頭支配江戸ニ罷在候へハ御用捨

一 頭支配當役間モ無之候へハ御用捨

御奉公人ノ外町在輕キ者追込追放之代リ笞杖徒之三刑相用候

ハ輕重大櫓左之通

追込七日 笞十

追込十五日 笞二十

追込二十日 笞三十

追込三十日 笞四十

急度追込四十日 笞五十

居町追拂 杖六十徒三月

居村追放 杖六十徒半年

村追放 杖七十徒二年

五里外追放 杖七十徒一年半

七里外追放 杖八十徒二年

十里外追放 杖九十徒二年半

十五里外追放 杖一百徒三年

五九

(四五二)